

# 和歌コンテスト応募用紙

応募〆切：二〇一七年十一月二十四日（金）消印有効

## 歌題 旅（たび）

「旅（たび）」を題にした歌を、なるべく多くの古語（『三省堂 全訳読解古語辞典 第四版』）に載っている語（語）を用いて、五・七・五・七・七の形式で詠んでみましよう。また、歌を詠むきっかけとなった出来事やエピソードを100字程度で紹介してください。

## 作歌のポイント

「旅」は、『万葉集』の時代から和歌に詠まれてきました。有名な歌を挙げておきましょう。

- ・家にあれば筈に盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る（『万葉集』二・一四二・有間皇子）
- ・旅にしてもの恋しきに山下の赤のそほ船沖に漕ぐ見ゆ（『万葉集』三・二七〇・高市黒人）
- ・唐衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ（『古今和歌集』 羈旅・四一〇・在原業平、『伊勢物語』九）

右の歌には「旅」という言葉しかありませんが、『三省堂 全訳読解古語辞典 第四版』の項目にありますように、「旅衣」「旅立つ」「旅人」「旅寝」「旅の空」などという表現も使用されました。右の最初の歌の「草枕」は枕詞になります。

ただで旅を意味することもあります。昔の旅は多くの困難や危険が伴いましたので、親類たちは餞（うま）のはなむけをして道中の安全を祈り、餞別を贈りました。その際の贈答歌には、「別れ路」「餞別を贈りました。」、船旅になれば「船路」「船人」などの表現で旅が詠まれました。餞は関（関所）の置かれる国境でも行われ、そこで見送ることを「関送り」、迎えることを「関迎へ」「境（さか）迎へ」などと言います。これらも旅にかかわる表現でした。本コンテストは、古語を使うことが条件です。右のような言葉や古語辞典で確認して、旅人の気分です。あ

## チェックリスト

和歌を作り、次のことができているか確認しましょう。

和歌の定型五・七・五・七・七になっていますか。	歌題についての歌かになっていますか。	古語を使っていますか。	単語の意味や活用は正しいですか。	助詞・助動詞は正しく使えていますか。
-------------------------	--------------------	-------------	------------------	--------------------

※和歌の中すべての漢字に、必ずふりがなを書いてください。  
ふりがな（必須）

## 和歌

この歌を作るきっかけとなった出来事やエピソードを100字程度で紹介してください。

120	100	80	60	40	20
-----	-----	----	----	----	----

所在地（必須）

学年（必須）

籍（必須）

氏名（必須）

都道府県  
都立・道立・府立・県立・私立・その他

学校名（必須）

ふりがな

担当教諭名（必須）

ふりがな

先生

※三省堂記入欄（何も記入しないでください。）